



長崎市立三原小学校

～寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～

「笑顔いっぱい！真剣いっぱい！感動いっぱい！の三原っ子」



MIHARA TIMES

令和3年7月7日発行

文責 校長 宮原 友彦

◆ ココロねっこ運動強調月間

今月は「長崎県ココロねっこ運動強調月間」です。ところで、「ココロねっこ運動」ってご存知ですか？



ココロねっこ運動とは

子どもたちの心の根っこを育てるために、大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てる長崎県の県民運動です。

また、長崎県ではあいさつ運動や地域で子どもを見守る活動など、子どもの健全育成のための取組を「ココロねっこ運動」として推進しています。

平成13年度からスタートした運動で、平成20年10月には「長崎県子育て条例」の中で県民運動として取り組むことが定められました。

大人が変われば子どもも変わる ～大人のあり方を見直す～

子どもは、親や身近な大人を成長のモデルとします。モデルである私たち大人が、ルールやマナーを軽視したり、人間関係のわずらわしさから他者と関わらずに生活したりしようとするのは、子どものよき手本となることでしょうか？

「子どもは社会を映す鏡」です。もし、子どもに問題があるとすれば、それは大人自身の問題として考えてみる必要があります。

できることから、大人から

子どもの育ちには、家庭が果たす役割が重要であることから、第3日曜日を標準日として、家族が子どもを中心としたふれあいを深める日としての「家庭の日」が広がるよう努めています。

※長崎県青少年育成県民会議のホームページから引用

そこで各御家庭では、皆さん当然、御存知の「あ・は・は運動」を意識した取組をお願いします。（入学説明会で配布したような…(^-^); 長崎市が幼・保・小・中一貫して取り組んでいることです。

あ…あいさつ・へんじ 元気よ〇く

は…はやね・はやおき・あさごは〇ん

は…はきものそろえ いい気持ち〇ち

◆ あいさつ…

地域の方とお話していると、「三原の子どもたちはよく挨拶しますね。」というお褒めの言葉を耳にします。毎朝の立哨指導をしていると、遠くから大きな声で挨拶できる子どもがいます。ほどよい距離感でしっかり挨拶できる子どもがいます。近くまで来て声は小さいですが、丁寧に挨拶できる子どもがいます。確かに「挨拶のできる子ども」が育っていると感じます。「挨拶」は三原の「誇り」になるまで育てたいと思っています。

それだけではありません。通りかかる車のドライバーにもお礼を兼ねて黙礼をしているのですが、大半のドライバーの方にはにっこり笑顔で黙礼を返してくださいませ。朝から心が温くなる瞬間です！

「挨拶はできてもできなくても良いもの」ではありません。これから社会の荒波にもまれるであろう子どもたちにとって、人間関係を円滑にするためには是非とも必要なことです。しかも、自分から進んで挨拶ができるようにしておきたいのです。よく耳にする「進んで挨拶しよう」とはそうした意味でも大切にしたいことなんです。

今一度、お子様の挨拶の様子について見つめ直してください。と同時に「子どもに背中を見られている自分」の在り様も見つめ直したいところですね。

三原に吹く風

さて、今週の月曜日、とても嬉しいことがありました。土、日の雨風で、1年生の朝顔、2年生のミニトマトが倒れてしまっていたようなのですが、遊びに来ていた3年生と1年生の子どもたちが、全部元通りに戻して、しかも汚れた地面を水を流して掃除してくれたそうです！そのまま知らないふりもできたでしょうに、月曜日にがっかりする1、2年生の姿を「想像」して、そうならないようにしてくれた気持ちが、とても嬉しく感じた月曜日でした!!

宮原のつぶやき

ある学年の保護者の方から、「宮原のつぶやき、楽しみにしています！」と連絡帳でお手紙をいただきました。いくつになっても、反応があると嬉しいものですね。(^-^)

今月は教育週間だったので、少々スペースが足りませんが、三原小がいつもたくさんの花で囲まれている秘密について書きます。内容的には三原に吹く風2といったところでしょうか。実は本校の庁務員の野副さんが、季節や行事のタイミングに合わせ、花の色合いや種類を考えながら、お世話や植え替えを行ってくださっています。入学式や卒業式に飾ってあるプランターも野副さん作です。普段みなさんが「当たり前のよう」に見ている三原小学校の風景は、「不断の努力の賜物」であることを忘れないようにしたいと思っています。また、育成協の松本会長から、三川中の美術部に作成してもらった七夕飾りをいただきました。子どもたちの願いでいっぱいになっていますので、学校に来られた際はぜひ玄関横の七夕飾りで目を楽ませてください。